



Title	船舶内装漆画について
Author(s)	三木, 久延
Citation	デザイン理論. 1988, 27, p. 133-139
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/52646">https://doi.org/10.18910/52646</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

# 船舶内装漆画について

三木 久延

船舶内装用の漆画を手がけ始めたのは昭和40年代に入ってからと記憶している。当時造船界は戦後賠償の返還船の事業が一段落し、新たな運輸省の年次計画船によって活況を呈し、日本の高度経済成長の最中で隆盛の時期でもあった。ここで素材の漆の歴史を振り返ってみると、狩猟時代が接着剤に始まり、やがて塗料として日用品を始め、美術工芸品として最高の域に達し、又社寺仏閣、建築や彫刻にも多用され、御料車や車輛の内外装にも使用されて来た。又近年は我が国漆器生産地の代表でもある輪島市で昨年に引き続いて本年もうるしフォーラムが開かれたことは衆知の通りである。

さて船舶については京工試研究報告「神坂雪佳と京漆器」の関連年表の中に、西歴1905年(明治28年)、天洋丸、地洋丸の内部客室を光琳風蒔絵で装飾すると記録されている。確かな資料並びに下絵等が現存しないとは残念である。

大正期に入って大型客船の建造に伴って室内装飾に漆が盛んに用いられ、殊に昭和初期から昭和10年代は国策的にも日本の象徴として、髹漆や蒔絵が盛んに用いられた。現在それ等の作品の所在や正確な資料が不明なのが現状である。

戦後は造船界の復興により、建造量は世界一を誇り造船ブームを呈した。私の従事した頃の昭和40年代は、第二次建造計画の最中で、客船は比較的少なかったが、貨客船、沿海フェリー、長距離タンカー、特殊船が中心であった。

ここで実際制作上の立場から振り返ってみると、船は海上という特殊条件下にあり、殊に塩分を含んだ高い湿度があり、漆はこれらの条件に充分に耐えられる塗料であると認められ、今日迄用いられて来たのは、発注側と造船界及び関係先人達の理解と努力に負うものである。

私が制作した作品は大半が大作であり、絵画的表現を要求される中で色漆には苦慮し、中でも「白の発色は納期の関係で悩みの種であった。船主や設計側の希望、建築技術の発達で、速力も早くなり、数日間で熱帯から寒帯への航行による気候の極めて激しい変化は気に掛けることの一つであった。素材として漆以外にも、金属、陶磁、貝、金箔、銀箔等の使用も楽しみの一つにもなった。

今回掲載の写真は昭和40年～50年にかけて約20年間私手がけた時期の作品で、中でも最近になって船主側の理解を得て作品との再会に巡り合い、保存状態良好で制作当時と大きな変化が見られなかったこと嬉しい報告の一つです。

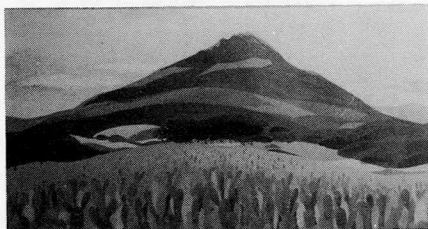
今回集録した中では、漆以外の材料として、メラニン化粧版(キョーライト)をベースにして漆絵を併用したもの、制作日数及び予算等の関係で、カシュウ、ポリサイト等の合成漆を併

用した作品も中に含まれている。設置場所もスケールの大きなものはエントランスホール、会議室に、その他スモークルーム、メッセンジャールームにも使用された。

漆絵のテーマは次の三種類に分けられる。①船名に因んだもの（例）熱田丸写真―(8) かいもん丸―(1) 白嶺丸―(4) ②寄港地の地名を表すもの とうきょう丸―(3) えめらんど おきなわ―(4) ③その他日本の伝統的な模様、新さくら丸―(9)、海上自衛隊特務艇ひよどり―(20)、ごーるでん おきなわ―(10)その他。

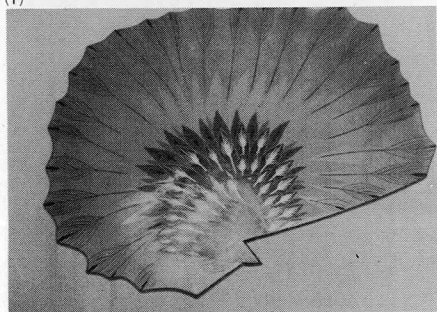
数々の制作例の中で、殊に印象深い昭和49年4月就航の通産省地質調査船白嶺丸に、昨年9月27日京都府西舞鶴港に寄港した際連絡を受け乗船した。現在同船は海洋技術開発(株)によって運航され、通産省工業技術院地質調査所、金属工業事業団、石油公団に属し今年で満14年目を迎えている。この間日本近海から中部大平洋、更に南水洋まで航跡を伸ばして海底の地質、鉱物資源の調査に多く成果を上げ世界的にも日本の代表的な地質調査船として評価を受けている。同船は海外ではホノルル（ハワイ）、シドニー（イーストラリア）、など他20港に寄港し、そのたびに船内レセプションが開かれたとの報告を船内で地質調査所、海洋地質課長盛谷智之氏より聞かされた。会議室の「連山新雪」の画面の中で白色の部分に一部変化が見られたが大きな損傷もなく、サロンの「紅葉」は色漆の部分及び螺鈿も保存状態も良好で制作状態と何ら変らなかった。他に海底調査船しんかい母船「なつしま」は本年1月27日川崎重工業神中造船所で乗船する機会を得て調査したが前船同様変化は見られなかったことも併せて報告させていただく。今回掲載の写真は過去の筆者の制作したものの中から20数点をとりあげたが、他の作家の制作例を割愛させていただいた。日頃縁の少ない特殊船を紹介することによって、かつての客船に見られないインテリアの中での漆絵が活用されている姿をご想像いただければ幸甚である。

1988. 9. 10



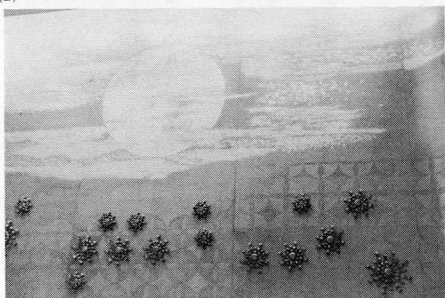
(1)

- (1) ①かいもん丸
- ②東京タンカー
- ③
- ④S. 43. 11(三菱重工長崎造船所)
- ⑤1500mm×750mm 漆



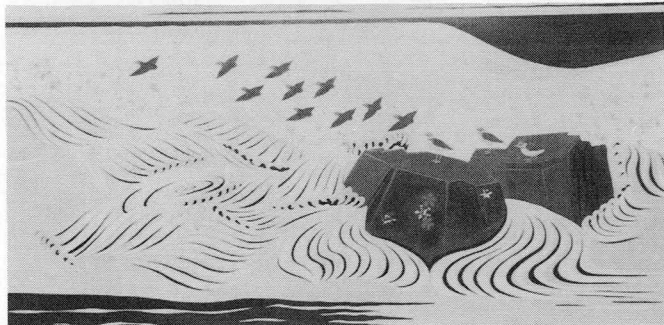
(2)

- (2) ①洋和丸
- ②太平洋海運
- ③
- ④S. 43. 11(三菱重工長崎造船所)
- ⑤550mm×450mm 木, 漆



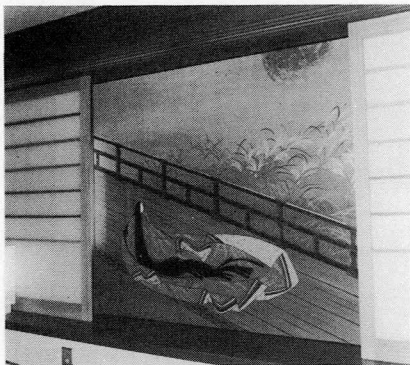
(3)

- (3) ①とうきょう丸
- ②琉球海運
- ③エントランス ホール
- ④S. 43. 7(尾道重造船所)
- ⑤4500mm×3150mm 漆, 金属



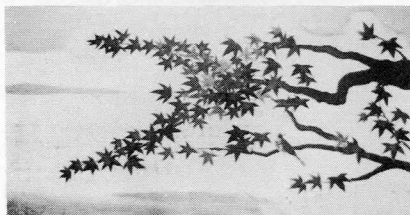
(4)

- (4) ①鳴門丸
- ②共和海運
- ③士官食堂
- ④S. 45. 12(内海造船所)
- ⑤1400mm×750mm 漆, 貝



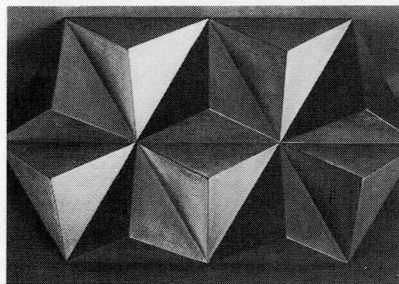
(5)

- (5) ①おきな丸
- ②琉球海運
- ③特別一等船室
- ④S. 46. 6 (尾道造船所)
- ⑤1500mm×1175mm 漆



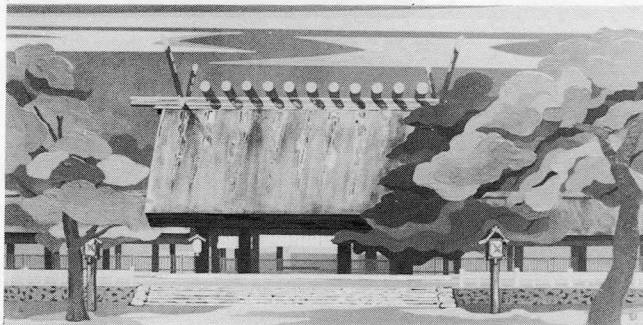
(6)

- (6) ①あじあ丸
- ②大阪商船三井船舶山上新日本汽船
- ③スモークルーム
- ④S. 46. 9 (日立造船因島工場)
- ⑤1100mm×550mm 漆



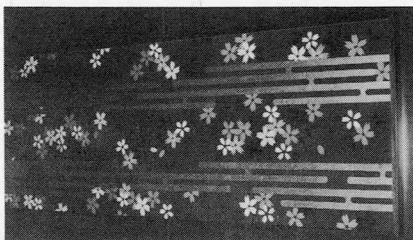
(7)

- (7) ①HOP・CHONG
- ②オーク
- ③
- ④S. 47. 2 (佐野安造船所)
- ⑤900mm×530mm 木, 漆



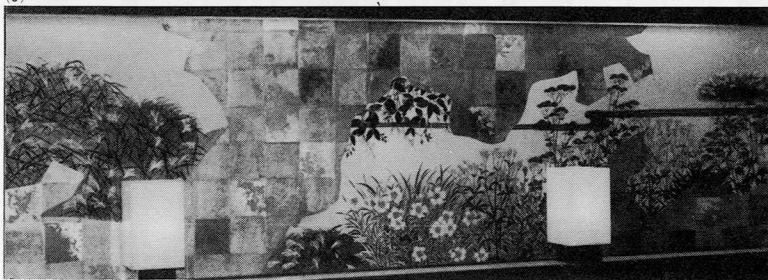
(8)

- (8) ①熱田丸
- ②昭和海運
- ③
- ④S. 47. 5 (日本鋼管津造船所)
- ⑤1200mm×600mm 漆, 貝

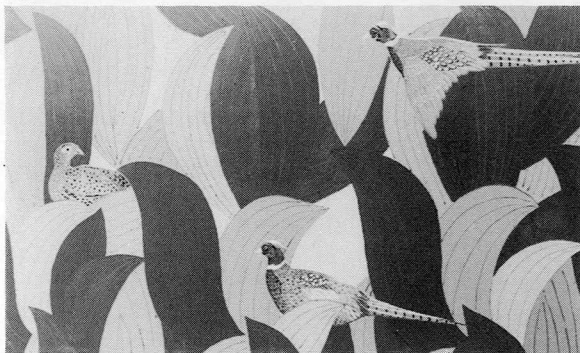


(9)

- (9) ①新さくら丸  
 ② JIEF  
 ③中央階段室  
 ④ S. 47. 7 (三菱重工神戸造船所)  
 ⑤ 3100mm×900mm キョーライト, 螺鈿, 漆粉  
 (写真 S 59. 7 撮影)

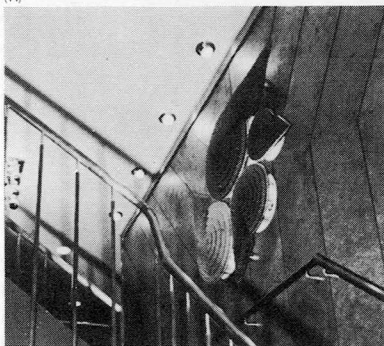


(10)



(11)

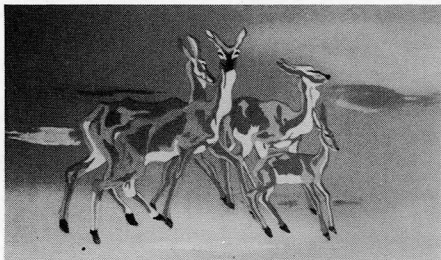
- (10) ①ごーるでん・おきなわ  
 ②琉球海運  
 ③特別一等船室  
 ④ S. 47. 10 (尾道造船所)  
 ⑤ 3250mm×820mm 漆



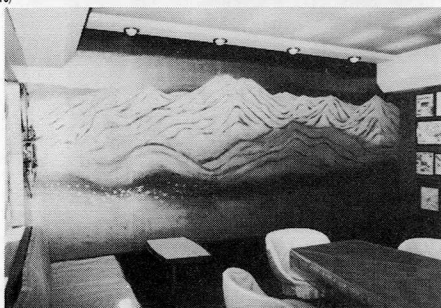
(12)

- (11) ①フェリー 対馬  
 ②九州郵船  
 ③サロン  
 ④ S. 47. 10 (内海造船, 田能造船所)  
 ⑤ 600mm×1200mm 漆

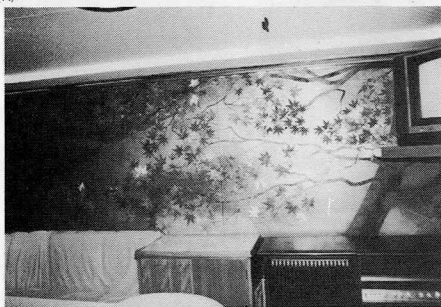
- (12) ①にいほま  
 ②四国中央フェリー  
 ③エントランス ホール  
 ④ S. 48. 4 (SNO 752)  
 ⑤ 4600mm×3500mm 金属, 漆



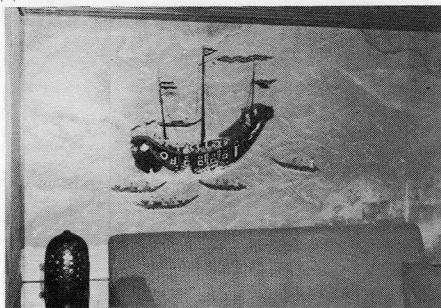
- (13) ①旭光丸  
②三光汽船  
③スモーキングルーム  
④S. 48. 11(三菱重工長崎造船所)  
⑤1000mm×600mm 漆



- (14) ①白嶺丸(地質調査船)  
②通産省金属事業団  
③会議室  
④S. 49. 4(三菱重工下関造船所)  
⑤4500mm×2000mm 漆, 金箔, カシュー  
(写真S 62. 9 撮影)



- (15) ①白嶺丸(地質調査船)  
②通産省金属事業団  
③サロン  
④S. 49. 4(三菱重工下関造船所)  
⑤4100mm×1200mm 漆, 金箔, カシュー  
(写真S 62. 9 撮影)

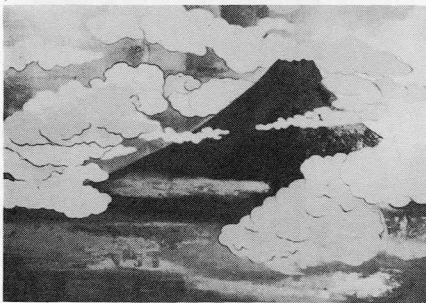


- (16) ①えめらんど・おきなわ  
②琉球海運  
③特別一等船室  
④S. 50. 1(神田造船所)  
⑤2800mm×1500mm 漆, 貝

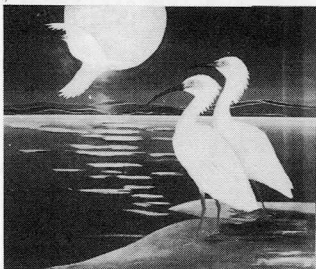




(17)



(18)



(19)



(20)

- (17) ① なつしま(深海潜水調査船)母船  
② 海洋科学技術センター  
③ サロン  
④ S.55. 8 (川崎重工神戸造船所)  
⑤ 1600mm×750mm 漆, カシュー  
(写真 S63. 2 撮影)

- (18) ① 天竜丸  
② 日本郵便  
③  
④ S.56.11(三菱重工長崎造船所)  
⑤ 1200mm×600mm 漆, 金箔, カシュー

- (19) ① 越後丸  
② 日本郵便  
③  
④ S.58. 8 (三菱重工長崎造船所)  
⑤ 900mm×600mm 漆, 金箔

- (20) ① ひよどり(特務艇)  
② 海上自衛隊  
③ 会議室  
④ S.62. 3 (日本鋼管鶴見造船所)  
⑤ 1480mm×680mm 漆, 金箔, カシュー